

～ 自分で考え、自分でやりたい！を満たしていく ～

素材を置いて、何かを作る指示はせずに子ども達を見守りました。

最初は戸惑い気味で、「これなに？どうするの？」と聞いていますが大人達のお好きにどうぞ、という雰囲気を感じ、聞かなくなっていきます。自分のやりたい事を見つけ、集中していきました。

何かに見立てる子、空想の中で遊ぶ子、粘土に型押しする子がいます。キャップに粘土を詰める、粘土をちぎる、ストローを刺す、廃材を並べる。やりたい事、使う量、興味あるものは1人ひとり違います。

途中から絵の具を出すと、廃材や粘土に塗り、絵の具を混ぜ、色の変化に気がきます。

粘土に絵の具を混ぜて変化する感触を、手や足で感じています。

そのまなざしは真剣です。

自分の世界観で遊んでいるようで、大人達はただ見守っていました。

時々、「みて！」と、大人に話しかけます。

「〇〇したんだね」と、事実を受け止めるだけで満足そうです。

完成形が無いので、評価が生まれません。

「かわいいね」「きれいだね」「できたから飾るね」など、大人の価値観で決めつけずに見守ることで、どんどん自分の感性で遊び込んでいきます。60分近く廃材のタレビンを探求している子もいます。

彼らは何が楽しいのか？を考え、大人が困らない準備をする。子ども達に渡した後は「さてどう楽しむかな」と見守ってみると自分で興味ある物を見つけ、遊びを展開していくでしょう。

その時間は、1人ひとりの「感じる心＝感性」を育てることに繋がるはずです。

